

宮崎県健康づくり推進協議会 議事録

日時 令和5年3月23日(木)

17時から18時まで

場所 防災庁舎76号室

1 あいさつ

健康増進課 市成課長

2 会長、副会長の選出

事務局案により、会長 山村委員、副会長 佐野委員に決定。

3 報告事項

1) 健康みやざき行動計画21(第2次)に基づく県の取組について

(1) 健康づくり推進体制及び宮崎県の主な取組(事務局説明)【資料1, 2】

- ・健康づくり推進協議会は健康づくりを進めるための諮問機関であり、二次医療圏地域・職域連携推進協議会、宮崎県糖尿病・慢性腎臓病(CKD)対策検討会を部会として位置付けている。
- ・健康みやざき行動計画21は、栄養・食生活から小児までの10分野で行動目標を定め、各ライフステージの課題に応じた事業を実施。
- ・宮崎県健康長寿社会づくり推進会議は、知事を会長におき、構成メンバーの県内団体・事業者等と連携して、健康長寿社会づくりを全県的に推進することを目的としている。
- ・健康寿命の延伸には、関係団体等と連携し、各ライフステージに応じた切れ目ない働きかけが重要。個人の行動変容支援はもちろんのこと、自然と健康になれる社会づくりが必要であると考えている。
- ・今年度の主な取組：全体的な取組としては、健康長寿社会づくり推進会議の開催、健康長寿推進企業等知事表彰、健康寿命啓発ポスター作成等。
栄養・食生活分野では、へらしお実践事業やおうちでベジ活サポート事業。⇒、ベジ活応援プレゼントキャンペーンの開催等。
身体活動・運動ではロコモ予防推進事業、プラス10分運動習慣推進、各県対抗ウォーキングイベント等。
たばこ対策では、世界禁煙デー・禁煙週間での普及啓発、受動喫煙対策を啓発するリーフレット、ボールペン作成等。
歯の健康では、フッ化物を活用したむし歯予防の啓発やいい歯の日プレゼントキャンペーンの実施による定期歯科健診の啓発等を実施。
がん検診対策では、みやざき犬を活用した動画やポスターの作成。動画はYouTubeで配信。乳がん早期発見月間に合わせた県庁ライトアップ等の実施。

(2) 糖尿病予防戦略事業の取組について（事務局説明）【資料3】

- ・若い世代及び働く世代をターゲットに、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事についての理解促進及び実践の定着を図ることを目的に実施。
- ・若い世代には管理栄養士養成施設である南九州大学との連携事業、働く世代には民間産業と連携した食環境整備事業を実施。
- ・若い世代を対象とした南九州大学との連携事業では、プラスひと手間で栄養バランスのよい食事にするための啓発を行った。学生が開発した簡単レシピを、健康増進課のInstagramへ掲載、昨年度と今年度のレシピを集約したパンフレットを作成。また、Karada Good Miyazaki フェスタにブースを出展し、簡単レシピの実演デモンストレーションや来場者への食生活アンケートを実施。
- ・働く世代を対象とした事業では、包括連携協定企業である南九州ファミリーマートと連携して実施。県内ファミリーマートにおいて、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を啓発。POP とオリジナルおしぼりに QR コードを掲載し、利用者向けアンケートとプレゼントキャンペーンを実施。取組は Instagram 等の SNS、テレビ CM、テレビ取材による広報で広く県民に周知した。現在、アンケート結果等を集計中。
(意見なし)

2) 部会の取組

(1) 二次医療圏地域・職域連携推進協議会の取組状況（事務局説明）【資料4】

- ・二次医療圏地域職域連携推進協議会では、健康課題によりテーマを個々に決定。生活習慣病予防、適正体重の維持、ベジ活、へらしお、健康経営等について、地域と職域が連携した事業を実施している。
- ・日南串間圏域では、今年度から健康経営の推進をテーマに、既存事業のイベント等を協議会委員と共有、活用することで、働く世代の健康づくりの取組を推進。
- ・都城北諸県圏域では、配食業者・弁当業者向けの減塩リーフレットを作成。
- ・日向入郷圏域では、へらしお認証店登録事業等、「へらしお」に着目した減塩の取組を推進。
- ・西諸圏域では、健康無関心層に対する働きかけや健康経営推進のため、「西諸ウォーキングキャンペーン」を実施予定。
- ・西都児湯圏域では、働く世代の食生活アンケートの実施や、健康経営セミナーを開催、健康長寿推進企業等知事表彰の受賞企業による事例発表等を実施。

(2) 宮崎県糖尿病・慢性腎臓病（CKD）対策検討会の取組

（事務局説明）【資料5】

- ・県糖尿病・慢性腎臓病対策検討会は感染症が流行したことにより開催できなかったため、検討会構成員へ取組内容の報告とした。報告内容としては、二次医療圏域の取組、毎年実

施している医療機関や保険者への調査結果、宮崎県糖尿病発症予防・糖尿病性腎症重症化予防指針の評価指標の直近値等。

- ・糖尿病連携手帳の活用及び多職種連携の重要性に関して、昨年度に引き続き医師向け研修を実施。
- ・二次医療圏毎の取組は、感染症の影響を受けて会議等書面開催したところもあったが、医療機関や保険者の調査結果の共有、自治体や関係機関の取組の共有、専門医や各都市医師会、保険者等により各医療圏の現状及び課題が検討されていた。
- ・今年度は糖尿病連携手帳の活用を推進するための医療機関と行政の顔のみえる関係づくりを目的とした研修会を開催。令和 5 年度までに全ての二次医療圏での開催を目指している。

(意見なし)

4 議題

1) 令和4年度県民健康・栄養調査について (事務局説明)【資料6】

- ・県民健康・栄養調査は約5年に1度、県民の栄養摂取状況や生活習慣状況を把握し、今後の健康づくり施策の方向性を明らかにすることを目的に実施。令和3年度に実施する予定だったが、感染拡大により今年度実施へ変更。今回の調査は、健康みやざき行動計画2-1(第2次)の最終評価と、次年度策定する次期計画の基礎資料を得ることを目的としたもの。
- ・一般健康・栄養調査は、20歳以上の成人を対象に県内27地区で実施。身体状況調査は実施せず、既存データを使用することとした。なお、身長・体重・腹囲は自記式回答も依頼。歯科調査は、歯科医療機関の協力のもと、歯周疾患実態調査実施。食事状況調査は、簡易型自記式食事歴法質問票(通称BDHQ)を用いて習慣的な食事摂取量を調査した。調査方法は、感染対策として郵送や電話を活用した非接触での調査とした。
- ・3歳児、就学前児、小学校5年、中学2年、高校2年を対象に、市町村や教育委員会と連携して実施。
- ・調査の集計や分析については、次年度に県民健康・栄養調査解析・評価検討会を立ち上げて進めていく。
- ・調査協力者数は記載の速報値のとおり。協力率等は集計中。
- ・身体状況調査は国保や各保険者が所有する令和4年度健診データを活用する予定であり、細かな部分は保険者と協議しながら進めていく。

(委員)

今回、BDHQで調査されているが、信頼性に欠けるもの。前回と調査方法が異なるので単純比較が出来ない。調査方法の変更はコロナ禍で仕方ないことだとは思っている。次期計画には支障はなくても、最終評価は大変難しくなる。このことは、事前に健康増進課へ伝えていた。

(事務局)

本来、令和3年度に実施するはずの調査がコロナの影響で中止となった。今年度は必ず調査を実施しなければならない中、BDHQをはじめ調査方法を再検討し、参考値としてでもデータを得られる内容へ見直した。これまでと調査方法が異なるため、評価の仕方や値の取扱いについては十分留意する。今後も御教示いただきたい。

2) 健康みやざき行動計画21(第2次)の最終評価及び次期計画の策定について

(事務局説明)【資料7】

- ・健康みやざき行動計画21(第2次)は、健康増進法に基づき、県民の健康づくりの基本指針として平成25年3月に策定。平成25年度から令和5年度までの11年間計画。
- ・最終評価と次期計画の策定は、令和4年度県民健康・栄養調査のデータ等を参考に進める。業務を円滑に行うため、令和5年度に「県民健康・栄養調査解析・評価検討会及び部会を設置する。最終評価及び次期計画の内容は、健康日本21(第二次)最終評価報告や、この春策定される健康日本21(第三次)を参考に行う。
- ・本協議会は健康みやざき行動計画21の私的諮問機関となっている。最終評価及び次期計画の内容を検討するため、次年度は年3回本協議会を実施する予定。1回目に方針の協議、2回目に最終評価及び次期計画素案の協議、3回目に最終評価及び次期計画案を協議としている。次年度、福祉保健部内の多くの計画で評価・次期計画策定となるため、庁内でも連携し、他の計画と整合性を図りつつ進めて行く。

(意見なし)

5 その他

(意見なし)

閉会